

モノづくりの老舗に息づく伝統と革新

—京浜工業地帯創成の主役たち—

有識者インタビュー

明治学院大学 教授 神田良氏

老舗が存続している背景には、古きを守り、新しさを創るというバランスの取れた経営手法が潜んでいる。サステナブルコンピューティングを中心に経営学を研究している明治学院大学経済学部神田良教授に、老舗企業の特徴やそこから見えてくる時代を生き抜く知恵について聞いた。

なぜ老舗企業について研究するのですか。

経営者は加速度的に変化する現在の環境に適応しなければならぬ。長期存続企業としての特徴やそこで実践されている経営ノウハウを明らかにしていくことで、現在の企業経営の参考にしたい。最終的には企業が長期継続可能かどうかを自社分析できる診断ツールを作りたい。

現在までに老舗企業を数多く調査されています。特徴的なことは何でしょうか。

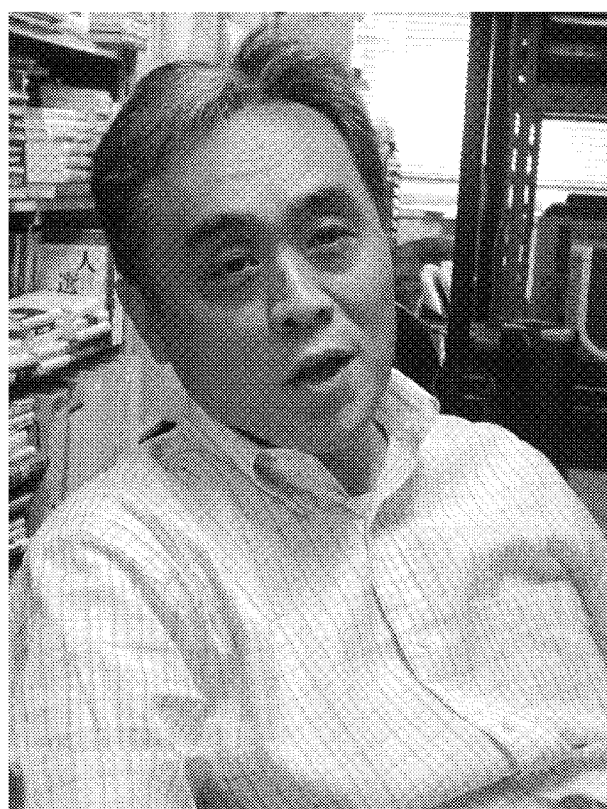
時代の変化とともに自らの事業を変化させてきたことだ。自分たちの技術や強みを理解し、多くの企業が事業革新だけでなく、自社の経営資源を転用できる新たな事業分野にも参入している。

中小企業における老舗という保守的なイメージがあります。

強みを理解し、身の丈にあった経営方針を貫き、自社にあった無理のない成長を図ることで、バブル崩壊など苦難を乗り越えてきた企業も多い。そういう意味では保守的であることは確かだ。浮き沈みを可能な限り回避し、創業事業を守りながら、新しい分野にチャレンジしている。伝統と革新のバランスを保っているというのが実情だ。

時代の趨勢を判断する「目利き」が来ていると・・・。

中小企業の老舗の後継者は、血縁関係にある場合が多い。若



ネス全体のことまで考慮し、関係づくりを構築している。そこにも経営のエッセンスがあると考えている。

京浜工業地帯に老舗の中小企業が多いことを見ると、地域性もありますか。

地域の持つブランド力は、そこに属している企業に多大な影響を与える。モノづくりの町、東京都大田区はいい例だ。今でもそこへ行けば何とかなるという印象をモノづくりの企業に与えている。こうしたブランドや名声は、一朝一夕に創れるものではない強みがある。

大田区では「仲間まわし」と呼ばれる町工場のネットワークを活用し、地域をあげてモノづくりに取り組んでいます。

一つの企業で付加価値を生み出すことができれば言うことはないが、地域全体で能力を発揮できる関係性を築けるかどうか。企業が長生きできる秘訣（ひけつ）だろう。そうした関係性の複雑さは、模倣が困難であるという意味で、強さの源泉の一つである。

南武

南武は、「モノづくりの街」大田区を代表する企業。主力製品の特種油圧シリンダーは、自動車エンジンなどアルミ部品の製造用金型の中子抜きに使われ、国内で約60%のシェアを保っている。創業以来、専業メーカーとして蓄積してきたノウハウが強みだ。

海外進出にも成功している。タイと中国に現地生産法人を持ち、販売代理店網は世界9カ国・地域に及ぶ。「グローバルニッチトップ」をスローガンに、成長著しいアジア市場への進出を加速させている。



1984年当時の本社

株式会社 南武

【代表取締役】野村和史 【創業】1955年
【事業内容】特種油圧シリンダーの設計、製造、販売
【住所】東京都大田区萩中3-14-18
【TEL】03-3742-7377 【FAX】03-3745-1021
【URL】http://www.nambu-cyl.co.jp/

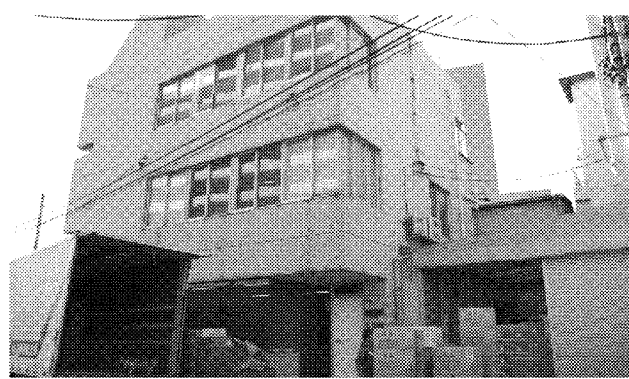


野村和史社長

ヤシマ

ヤシマはプラスチック射出成形を本業にしている。自動車バッテリーに用いる液口栓は、国内シェア60%以上を占める。完全に機械化された自動生産ラインを駆使し、生産は24時間体制。本社工場は最長56時間、無人操業できる。

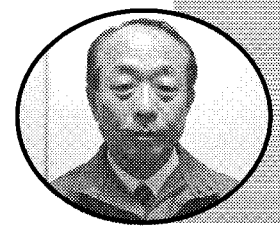
無人化を徹底したため、価格、品質ともに中国・東南アジア製品より優位に立つ。国内外から視察が多く、地価が高い東京都大田区で、モノづくりの量と質を追求しつづける。



創業当初より現在地に居を構える

株式会社 ヤシマ

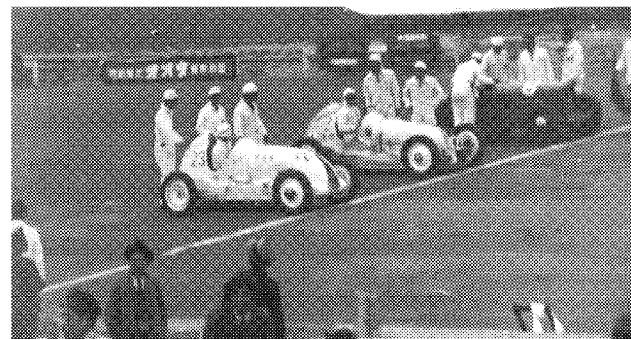
【代表取締役】箕浦裕 【創業】1934年
【事業内容】電池部品など射出成形品の製造、販売
【住所】東京都大田区西六郷4-28-15
【TEL】03-3732-7726 【FAX】03-3739-6576
【URL】http://www.14.ocn.ne.jp/~yashima6/



箕浦裕社長

タマチ工業

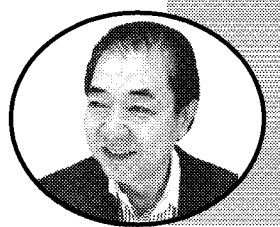
タマチ工業は、1962年創業。太田邦博社長の祖父太田祐雄氏が飛行機エンジンの試作や自動車製作を手がけた「太田工場」から2012年で1世紀を迎える。自動車製造関連の技術を継承しながらも「モノづくりは時代に沿って変わっていくのが命題」(邦博社長)と認識し、医療や航空宇宙など他分野にも事業を積極的に展開している。今までの成功体験が通用しないと感じている現在、「新たなモノサシを創造し、時代に合った価値基準を採っていききたい」と、顧客との信頼関係を重視したモノづくりを進める。



1936年、多摩川スピードウェイで開催された「第1回全日本自動車競走大会」。一番手前がオオタ号

タマチ工業 株式会社

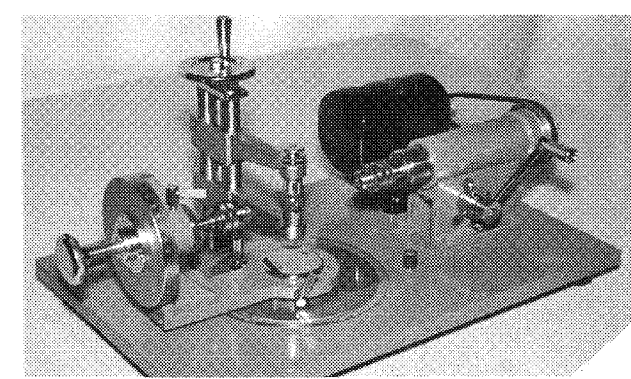
【代表取締役】太田邦博 【創業】1962年
【事業内容】エンジンや試作開発部品の超精密加工
【住所】東京都品川区南大井4-10-2
【TEL】03-3762-5591 【FAX】03-3766-6731
【URL】http://tamachi.jp/



太田邦博社長

フィーサ

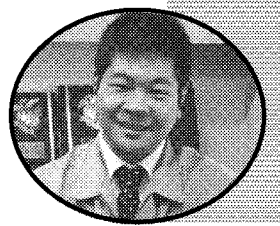
フィーサは研究開発型の町工場。主力製品のホットランナ射出成形用「ブラゲート」ノズルは、自動車や白物家電の金型に使われ、国内シェアはトップクラス。日本で培った高い技術力は世界でも求められる。取引先の海外シフトに伴い、海外への進出も活発。アメリカ、中国、タイに現地法人を設け、成長著しいアジアを中心に外需を取り込もうとしている。現在の目標は、2025年までに、日本・中国・タイの3カ国で売上高60億円を達成することだ。



初の自社製品である「球体穿孔機」

フィーサ 株式会社

【代表取締役】斎藤進 【創業】1961年
【事業内容】「ブラゲート」など精密機器の製造、販売
【住所】東京都大田区池上7-12-11
【TEL】03-3754-0661 【FAX】03-3754-0011
【URL】http://www.fisa.co.jp/

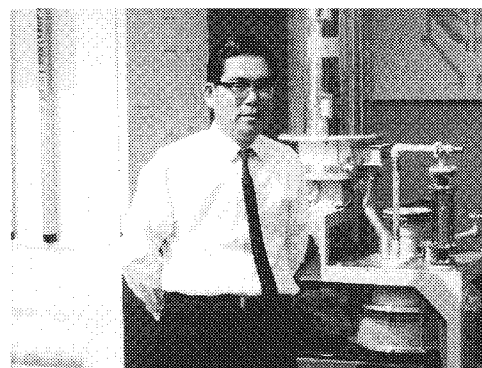


斎藤進社長

粉研パウテックス

粉研パウテックスは粉体を自在に操る粉体機器の専業メーカー。1952年の創業以来、「粉」の研究を進めてきた。定量供給機や連続混合機は食品、化学、電機など世界中のあらゆる業界で用いられている。

主力製品の連続混合機「フロージェットミキサー」は粉体の連続加湿、混練、溶解などの各工程を秒速で行える。1995年、中国に合弁で工場を設立。現在は半導体や特殊素材などの完全自動生産ラインの構築を目標にしている。



創業者の岩子素也氏

株式会社 粉研パウテックス

【代表取締役】岩子眞由美 【創業】1952年
【事業内容】粉体機器の製造、販売
【住所】東京都品川区西五反田7-22-17
【TEL】03-3494-4511 【FAX】03-3494-4517
【URL】http://www.funken.co.jp/

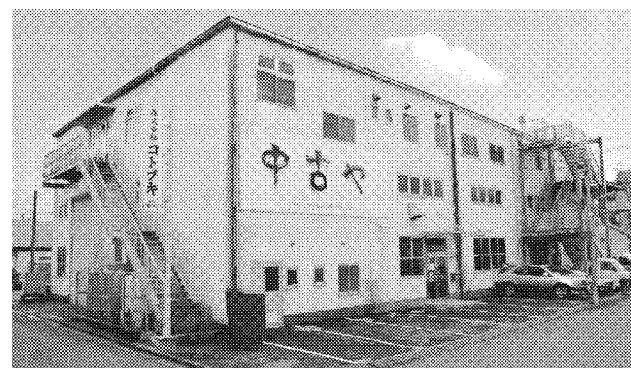


岩子眞由美社長

コトブキ

東京都大田区は日本を代表する町工場の街だ。東横谷5丁目の工場地帯を行くと、「中古や」という看板が見えてくる。コトブキの本社兼ショールームだ。

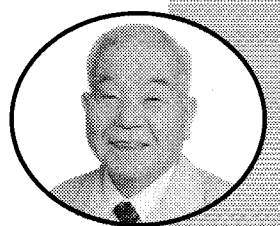
工作機械や精密測定機器、光学機器の販売を本業としながら、自社製品を手がけているため、メーカーの側面も持つ。顧客の町工場から生の声を取り入れ、販売、メンテナンス、製造、システム開発と、事業内容は柔軟に変化。「地域密着型経営」で50年の歴史を刻んできた。



現在の本社兼ショールーム

株式会社 コトブキ

【代表取締役】馬場均 【創業】1960年
【事業内容】工作機械・精密測定機器の専門商社
【住所】東京都大田区東糀谷5-9-1
【TEL】03-3745-4511 【FAX】03-3745-4571
【URL】http://www.kotobuki-tokyo.co.jp/



馬場均社長